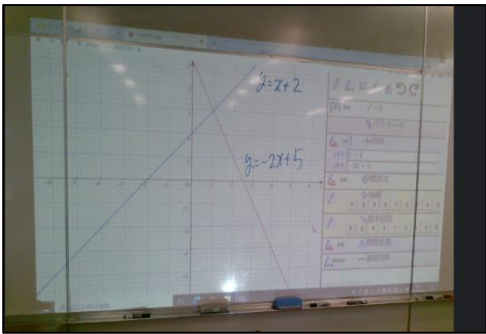


令和4年度 1人1台端末の活用による実践事例

学 校 名		岡山県立烏城高等学校	
実践者等		三澤 宏明	実践日
実践場面		週3時間の授業ごと	
対象生徒（学年等）		数学・数学 I	
対象生徒（学年等）		普通科（昼間部1年生）	
育成を目指す資質・能力		☒ 知識・技能 ☒ 思考力・判断力・表現力等 ☐ 学びに向かう力・人間性等	
分類	授 業 中	☒ クラウドやアプリの活用 ☐ デジタルデータの保存 ☐ 思考やデータの可視化	
		☐ データの共有や共同編集 ☐ 対話を充実させる活用 ☐ 思考を促す活用	
		☒ 表現を充実させる活用 ☐ 課題のやり取りと評価の支援 ☐ 効率化や省力化	
	家庭学習	☒ 振り返り ☐ 探究 ☒ 反転学習 ☐ 補習・定着	
実践の内容			
(1) 授業で行うプリントをPDF化して、Classroomにて生徒へ配信する。授業プリントはデジタルと紙の両方を配布するようにする。 (2) 毎時間、3分程度の小テストをFormsを用いて行う。授業の開始と同時にクラスルームに小テストを配信する。問題を解いた後、すぐに結果をスクリーンに映して、正答率や正解の確認を行う。 (3) クラスルームに「Grades」のアドレスを配信して、各自で1次関数や2次関数のグラフをかく。作成したグラフにおいて、生徒がそれぞれのパラメータを変化させることで、グラフの動きをとらえる。 1次関数では ①$y=x+2$、$y=-2x+1$ ②$y=ax+1$ ③$y=x+b$ ④$y=ax+b$ と段階を踏んでグラフをかかせる。a、bの値を変化させてグラフの動きを見るようにする。 (4) 今後の展望 今後は、発展的な問題を扱う際にグループ活動を取り入れ、Jamboardを活用して問題の考察をさせたい。		 	
<本時前> - 意欲のある生徒はClassroomにアップロードしている授業プリント（PDF）を見て、何を学習するかを把握してくる。 <本時後> - 理解が不十分な生徒は授業プリントを利用して振り返りをする。			

実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等は各校で行った上で提出してください。）